

印西大師 番外 平岡・オクノ家

- 1 名称 (No.210)〔資料館：○印〕〔行程表：オクノ家、又はオクの家〕
- 2 場所 印西市平岡1156-3付近 民家の敷地内
民家の庭先にあるので所有者の許可なく参拝はできないが、門柱の前から見えるので、遠くからでも良ければ路上からでも参拝可。
平岡・東大寺から道程約340m
GPS座標 35.83325503651382, 140.1739909763075
- 3 由緒 造立者の川村氏の屋号が「オクノ家」(おくのいえ)であるため、印西大師でもそう呼ばれているそうです。
- 4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が2体と線刻の弘法大師像(鯖大師)が1体あり。
- 5 境内 民家の敷地内
- 6 写真 (2023.12撮影)



大師堂



御大師様



門柱付近から大師堂方面



左の御大師様(鯖大師)



中央の御大師様



右側の御大師様(明治43年)

7 情報

(1) 印西町調査報告書

印西町調査報告書(追録)には、平岡の川村氏宅前に弘法大師像が2体あること、そのひとつは明治43年(1910年)に川村氏が造立した丸彫の四国第70番、もうひとつは造立年は不明だが同じく川村氏が造立した自然石に線刻した四国第55番の鯖大師で「四国五十五番 (大師像)

大阪や八坂さかなにさばひとつ くれて馬のはら病 くれて馬のはら止」と記載されています。

(参考) 四国八十八ヶ所第70番 七宝山持法院本山寺(香川県三豊市)

四国八十八ヶ所第55番 別宮山金剛院南光坊(愛媛県今治市)

(2) 屋号が「おくのいえ」

川村家をお尋ねし、お話を聞かせていただきました。(2023年12月訪問)

この御堂は、川村家の先々代の方が建立した御堂で、実際に四国八十八ヶ所に行ってお砂を持ち帰ってこの御大師様を祀ったそうです。高野山にも宿泊したことがあって、中央の小さい御大師様はその時のものとのことでした。鯖大師を祀った経緯についてはわからないということでした。明治33年に馬の病が流行したことから、その病氣治癒などを願ってのものかもしれません。

氏神様は別にお祀りしているそうですが、川村家の守り神であることには違いありません。先代の奥様が99歳で最近お亡くなりになったそうです。5～6年前に来ていれば昔の話をたくさん聞けたかもしれません。

川村家の屋号は「おくのいえ」なので、印西大師の札所の名称も「オクノ家」と呼ばれているとのことでした。

それまで、印旛歴史民俗資料館の印西大師巡拝順路図を見ると、かねとの堂(山根山不動尊)→平岡・ドテ→平岡・東大寺→平岡・○→竹袋・五ノ神の順になっているうえ、平成28年度などの印西大師順路行程表では、木下・正寶院(山根山不動尊)→平岡・オクノ家→平岡・東大寺→竹袋・五ノ神の順になっているので、平岡・ドテ=平岡・オクノ家、平岡・○=川村家の大師堂であろうと勘違いしていました。さらに「平岡・ドテ」と表示のあるあたりに奥野さんという名字のお宅があるので、平岡・ドテ=奥野さん=オクノ家と思い込みをしていました。お話を伺い、ここがオクノ家であることが初めてわかりました。

帰り際に自家製の大きなミカンとキウイをいただきました。本当にありがとうございました。



(3) 鯖大師の伝説

あるとき、旅の僧が馬に塩鯖を積んだ馬子に出会い、鯖を乞うが馬子は僧を嘲(あざけ)り、その願いを拒否する。馬子が去ろうとしたところ、僧が呪歌を唱え、馬が腹痛を起こし苦しみ始める。馬子が謝って鯖を与えると僧は再び呪歌を唱え、馬はもとに戻った。

江戸時代以前に阿波国に伝わっていた伝説では、この僧は行基とされていた。土佐国との境に程近い八坂八浜と呼ばれる難所が伝説の舞台とされており、その場所に建てられた行基庵という庵が鯖大師信仰の本山とも言える八坂寺の縁起となっている。四国に伝わる呪歌は「大阪や 八坂坂中 鯖ひとつ 行基にくれて 馬のはらやむ」というもので、「やむ」は「病む」と「止む」の掛詞である。高野聖や勧進聖はこの伝説や呪歌を日本各地に広めて歩いたと言われる。そのため、この伝説は青森県から九州地方にかけての日本各地で再話されており、場所が変わったり、馬が牛になったり、行基が固有名の無い単なる大師と表現されたり、尼になったりする派生形も存在する。行脚する聖が消滅した明治時代以後には、僧を空海とする伝説が敷衍し、鯖大師伝説は弘法大師伝説のひとつへと変容していった。

鯖大師の大師像は、莫産(ござ)を背負った立ち姿で笠をかぶり、左手に数珠、右手に鯖を一匹掲げた姿をしており、鯖を手に行っている部分を除いては旅装の弘法大師像と似た特徴を持っている。かつては路傍や峠の入口に鯖大師の石仏が置かれ、漁業や陸運業の安全と繁盛、牛馬の加護を願う対象となっていた。また、東北地方では牛馬の腹痛を癒やす呪いとして行基の呪歌が伝えられていた。近代以後に大師信仰に収容された鯖大師は、札所となっている寺院や大師堂に収められ参拝の対象となっている。(Wikipediaより)